

◆パナソニック / パナソニック システムソリューションズ ジャパン:「撮る・創る・映す」映像コンテンツ制作現場のワークフローをクラウドで革新

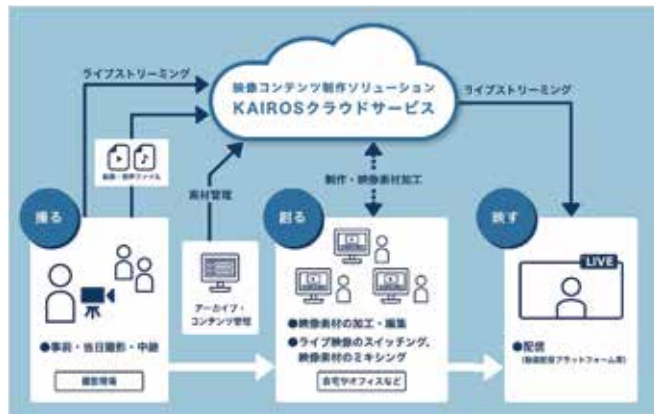
クラウド型映像コンテンツ制作ソリューション「KAIROS (ケイロス) クラウドサービス」を来春より開始 時間や場所に制約されず、業務時間 約 30% 効率化※

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社 (本社: 東京都中央区、社長: 樋口 泰行) およびパナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社 (本社: 東京都中央区、代表取締役社長: 片倉 達夫) は、ライブ配信を含む映像コンテンツ制作の「撮る・創る・映す」のワークフローを革新し、時間や場所に制約されることなく、魅力ある映像コンテンツ制作・多彩な演出をサポートする「KAIROS クラウドサービス」を 2022 年春より開始する。

近年、スマートデバイスの普及による視聴プラットフォームの多様化や、コロナ禍でのスポーツ・イベントのオンライン配信ニーズの増加などにより、映像コンテンツ制作の需要は急速に高まっており、アフターコロナのニューノーマル時代においては、さらに拡大していくと考えられている。そのため、制作現場では、時間や場所に制約されない効率的なワークフローの実現とともに、コンテンツの質向上で多様化する視聴者要望に応える映像制作への対応が求められている。

「KAIROS クラウドサービス」は、映像コンテンツ制作現場を革新する IT/IP プラットフォーム「KAIROS」(2020 年 9 月発売済み) をベースに、クラウド型のサービスとして提供することで「撮る・創る・映す」のワークフロー全体をサポートする。カメラで撮影した映像素材をクラウドへ集約し、撮影・制作現場だけでなく遠隔地のオフィスや自宅からもアクセスできるようにすることで、場所に制約されることなく、リアルタイムに映像を編集・制作・配信することが可能となる。さらに、映像制作ワークフロー全体をクラウドサービスとして提供することで、制作現場の初期投資を抑え、現場のワークスタイルに合わせた最適な組み合わせで利用可能とする。

【KAIROS クラウドサービス概要図】



パナソニックは、映像コンテンツ制作現場におけるリモートプロダクションの加速により、時間や場所に制約されることのない映像コンテンツ制作環境をお客様とともに共創する「現場プロセスイノベーション」を推進し、多様化する映像体験を様々な現場で実現できる、新たな映像コンテンツであふれる社会づくりに貢献していくとしている。

【サービスの特長】

- (1) 現場集中型から分散型により、場所に制約されない効率的な制作業務を実現
- (2) 映像素材の撮影・制作・配信 / 納品までの業務時間を約 30%削減※

(3) 制作業務に合わせ、最適な組み合わせで利用可能

【商品ページ URL】

https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_kairos-cloud

【お問い合わせ先】

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社
メディアエンターテインメント事業部 事業開発センター
メールアドレス : bdc@ml.jp.panasonic.com

<サービスの特長詳細>

(1) 現場集中型から分散型により、場所に制約されない効率的な制作業務を実現

映像データと制作システムをクラウド上に集約。撮影した映像やライブ映像をクラウド上に伝送し、ライブ映像スイッチング、映像ミックス、音声ミキシングから配信までの作業をクラウド上で行えるようにすることで、自宅やオフィスなど場所に制約されることなく作業することが可能となる。また、クラウド上で記録された映像、アップロードされた事前撮影や編集映像はすべてクラウド上のコンテンツ管理システムで管理され、必要な素材を必要な時にどこからでも容易にアクセスし利用することができる。

【KAIROS クラウドサービス利用前後の制作業務イメージ】



(2) 映像素材の撮影・制作・配信 / 納品までの業務時間を約 30%削減※

多様化する映像コンテンツの制作現場では、場所に制約された編集業務や、現場での設備・システムの構築など、撮影から配信までの業務は多岐にわたります。本サービスでは、クラウド上に映像データを集約させることで、データの一元管理が可能。また、編集・制作・配信までをリアルタイムで行える作業環境により、データ納品までの時間も短縮することができます。

ライブ中継時は直感的操作が可能なソフトウェア GUI により、多様な演出で、クリエイティブな映像制作を容易に行うことができます。

【撮影・制作・配信 / 納品までの業務時間の比較イメージ】



(3) 制作業務に合わせ、最適な組み合わせで利用可能

映像制作ワークフロー全体をクラウドサービスとして提供することで、初期投資を抑え、撮影した映像素材の編集、制作コンテンツのオンラインライブ配信など、制作業務にあわせて必要なサービスが必要なタイミングで利用可能となる。さらに、パートナーとの共創により、機能拡張による継続的なアップデートを行うことで、常に最新のサービスを提供し、クリエイティブな映像制作をサポートする。

※パナソニックが実施した、複数の実証実験に基づき算出

◆キャノンマーケティングジャパン：ゼロタッチ導入を実現し、運用監視サービスをパッケージ化した“マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F”の



販売を開始

キャノンマーケティングジャパン株式会社（代表取締役社長：足立正親、以下キャノン MJ）は、UTM（統合脅威管理）製品「FortiGate」のゼロタッチ導入と導入後の運用監視によるセキュアな環境維持を実現する“マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F”を「HOME セレクトシリーズ」として、2021年10月27日より販売を開始。

※ゼロタッチ導入：初期導入時にネットワーク接続と電源オンのみでの運用開始

昨今では中小企業においても、テレワーク・Web 会議システムや財務会計のデジタル化など、業務への IT 導入が増加しており、自社の安全なネットワーク環境を構築するために自社拠点とインターネットの境界に UTM（統合脅威管理）を導入する企業が増えている。

しかしながら、UTM のパフォーマンス最大化と適切なセキュリティ対策の実現には、お客様ごとの環境に合った設定や運用監視を行うことが必要であり、多くの労力を要する。また、人材不足が経営課題の一つとなっている中小企業では専任担当者を置くことができないケースが多く、導入時の設定や運用監視が充分にできていない状況になっており、セキュリティ対策の導入、運用、そしてトラブル発生時における対応は、担当者にとって大きな負荷になっている。

このような状況から、このたびキャノン MJ は、UTM 製品「FortiGate」向けの運用監視サービス“マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F”を中小オフィス向け IT サービス「HOME セレクトシリーズ」として発売する。

本サービスは、キャノン MJ グループがこれまで蓄積してきた「FortiGate」の取扱い実績とその他のセキュリティ製品やサービスの運営実績をもとに新たに設計した、UTM の迅速な導入・運用状況の監視・セキュアな環境維持を実現するサービスだ。初期導入時にネットワーク接続と電源 ON のみでの運用開始を可能にする「ゼロタッチ導入」や、サポートセンターによる「FortiGate」の死活監視、設定変更の受付対応、ファームウェア・バージョンアップなどをパッケージサービスとして提供する。これにより、顧客ごとの環境にあったセキュリティ対策と運用負荷の軽減を実現する。

今後、クラウド型サービスを中心にラインナップを充実させ、顧客課題に対してスピードある解決策を提供して行くとしている。

■ 価格

製品・サービス名	初期費用（税別）	備考
マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F	34 万 8,000 円	初期費用は 5 年間のサービス契約
FortiGate40F SecuritySuiteJL+FortiCloud 本体【MSS 専用】5 年	販売店へお問い合わせください	SecuritySuiteJL+FortiCloud および先出しセンドバックによる 5 年間製品の保守付き

* 上記料金には消費税は含まれてない。

* 本サービスの料金・仕様は予告なく変更になる場合がある。

* 本サービスの対象となる FortiGate 機器モデルは、FortiGate 40F となる。

* 本サービスをご契約いただくにあたり、専用の FortiGate 機器品目と組み合わせて同時にご購入いただく必要があります。

* 既に導入済みの FortiGate 機器やサービス対象外の機器モデルへのサービス提供はできません。

* FortiGate 機器の製品保守と本サービスを含め、5 年間一括契約となります。

* 別途記載、サービス利用時における機器設置方式と環境条件・留意事項をご了承のうえご契約ください。ネットワーク環境を変更する必要があります。

<フォーティネットジャパン株式会社様からのエンドースメント>

フォーティネットジャパン株式会社は、キャノン MJ 様の HOME セレクトシリーズ「マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F」の提供開始を歓迎します。サイバー攻撃によるセキュリティ脅威が高まる中、UTM のスムーズな導入、運用の簡素化、セキュリティ水準の維持は中小企業のお客さまにおいて大きな課題です。この課題は FortiGate のクラウド管理サービスである FortiGate Cloud の機能とキャノン MJ グループ様の運用基盤を組み合わせた本サービスで解決することが可能となります。このサービスがお客さまのビジネス環境を、より快適に、そして安心・安全な環境作り役に役立てていただけることを期待します。フォーティネットジャパン株式会社 社長執行役員 久保田則夫

■ HOME セレクトシリーズとは

HOME セレクトシリーズとは、HOME お薦めの中小オフィス向け IT サービスです。市場ニーズに合わせて優れた商材をスピーディに提供する。

■ SecuritySuite JL とは

「FortiGate」にラック社が提供する脅威情報データベース「JLIST」をキャノン MJ とキャノン S&S が組み込み、日本国内で流行するサイバー攻撃への防御を強化したモデル。

< “マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F” の主な特長 >

“マネージドセキュリティサービス for FortiGate 40F” は、FortiGate 機器（UTM）向けの運用監視サービス。

FortiGate のコンフィグ（設定）情報をクラウド管理することでゼロタッチ導入※1を実現し、導入後の設定変更と運用監視をサポートセンターが行う。常時監視を行うことで、アラートの発生や機器故障時に迅速な対応を提供する。

■ ゼロタッチ導入※1

初期導入や交換時に、所定（サービス仕様をご参照）のネットワーク構成にて LAN ケーブルを結線のうえ電源を ON にするだけで利用が可能です。自動でコンフィグ情報を取り入れ、機器設定と運用監視サービスを開始する。

■ コンフィグ情報のクラウド管理

お客さまが使用する FortiGate 機器のコンフィグ情報をクラウド環境で管理 / 保存をします。

機器交換時には保存されたコンフィグ情報をバックアップすることが可能。

■ 設定変更と故障時の機器交換

Web フィルタリングやアンチウイルス、IPS の設定変更、故障時の機器交換は、本サービス専用のサポートセンターで受け付けのうえリモートで対応する。

■ 機器監視とファームウェア・バージョンアップ

専用の運用監視基盤を用いて機器監視を常時実施し、アラート発生時には迅速にお客さまに連絡します。安心・安全なご利用のため、別途定める基準に従いファームウェア・バージョンアップをリモートで実施する。

■ 機器設置方式 NAT モード + バーチャルワイヤペア

■ 環境条件

- ・DHCP 環境である必要があります。
- ・インターネット回線およびブロードバンドルーターはお客さまにてご用意ください。
- ・ブロードバンドルーターの LAN ポートの空きが 2 つ必要となります。
- ・FortiGate 機器配下に Hub または Switch が必要となります。

■ 留意事項

- ・本サービスをご利用の場合、FortiGate 機器の拠点間 VPN およびリモートアクセスは利用不可となります。
- ・既存ネットワーク環境の変更（配線の差し替えなど）が必要となります。
- ・ブロードバンドルーター付随の無線機能をご利用の場合、無線接続によるインターネットアクセスは FortiGate 機器のセキュリティ対象外となります。
- ・HTTPS 通信における「SSL ディープインスペクション」機能を有効にする場合、サポートセンターへ問い合わせのうえ、利用いただく各端末への証明書インストールはお客さまにて実施していただきます。

◆アドビ：Adobe MAX 2021にて、「すべての人に『つくる力』を」を解放する次世代 Adobe Creative Cloud を発表

Adobe Creative Cloud 全体にわたる数々の Adobe Sensei 機能、Frame.io の買収によるビデオ制作での協調型クリエイティビティの実現、3D および没入型体験の強化、Adobe Photoshop web 版および Adobe Illustrator web 版の発表

渡辺直美氏、佐藤可士和氏、ヘンリー ゴールディング氏、ティルダ スウィントン氏、キーナン トンプソン氏、クロエ ジャオ氏ら国内外からの著名人が登壇

米国カリフォルニア州サンノゼ発：アドビ (Nasdaq: ADBE) (本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ) は、世界最大のクリエイティブカンファレンス Adobe MAX 2021 を開催した。

Adobe Creative Cloud の主要アプリケーションの大幅なアップデートと併せ、新たなコラボレーション機能の導入により、学生、ソーシャルメディアクリエイター、クリエイティブプロフェッショナルなど、世界中の何百万人ものユーザーのクリエイティビティを新次元へと解放するイノベーションの数々を発表した。

Adobe MAX 2021 では、アドビの人工知能 (AI) と機械学習のプラットフォームである Adobe Sensei を搭載した Adobe Creative Cloud の主要アプリケーションが大幅にアップデートされたほか、Frame.io の買収による動画制作プロセスの加速化および、3D の強化と没入型体験におけるオーサリング機能を追加しました。また、「Adobe Creative Cloud カンバス」や「Adobe Creative Cloud スペース」といった、Adobe Creative Cloud でのコラボレーション機能のお披露目および、Adobe Photoshop web 版、Adobe Illustrator web 版を発表した。

また、アドビが主導する「コンテンツ認証イニシアチブ (Content Authenticity Initiative)」の一環として、Adobe Photoshop に「コンテンツ クレデンシャル (Content Credentials)」機能を導入しました。これは、コンテンツを制作した人のプロフィールと編集履歴を作品に埋め込むことで、クリエイターが作品の作者として確実に認知されるようにする機能で、希望する人は誰でも利用できます。このコンテンツ クレデンシャル機能は、NFT マーケットプレイスでも表示されるようになる。さらに、アドビが運営するソーシャルプラットフォームである Behance にサブスクリプションモデルを導入し、自分の作品をプレミアムコンテンツとして公開し、有料サブスクリプションとして対価を得ることができるようになった。

アドビの Creative Cloud 担当エグゼクティブ バイスプレジデント兼 CPO (最高製品責任者) のスコット ベルスキー (Scott Belsky) は、次のように述べている。「クリエイティビティは、新しい働き方に合わせて進化しています。アドビは、ユーザーのクリエイティブな可能性を最大化するコラボレーション機能、さらに拡充した AI 搭載機能の数々、そして Web ファーストのアプリケーションを、Adobe Creative Cloud に新たに導入します。Adobe Creative Cloud の製品とサービスを再構築することで、チームを結びつけ、新しいクリエイティビティの方法を可能にし、クリエイ

ターたちのキャリアをさらに強化します」

クリエイティブなイノベーションの解放

アドビは、Adobe Creative Cloud の主要アプリケーションの最新版に、Adobe Sensei を搭載した新機能を導入し、継続的なイノベーションを通じてクリエイティビティの未来について定義します。Adobe MAX 2021 で発表された新機能のうち、主なものは下記のとおり。

- Adobe Photoshop: AI を搭載した 3 つの「ニューラルフィルター」を Photoshop デスクトップ版に追加し、Photoshop iPad 版では Camera Raw ファイルをサポート。
- Adobe Lightroom/Adobe Lightroom Classic: 機械学習の応用でパワーと精度を強化した「マスク作成」機能、「おすすめプリセット」、「コミュニティリミックス」機能。
- Adobe Premiere Pro: 「音声のテキスト化」機能の強化と、Adobe Sensei を搭載した「リミックス」機能 (ベータ版)。
- Adobe After Effects: 「マルチフレームレンダリング」によるプレビューとレンダリングの高速化と、Adobe Sensei を搭載した「シーン編集の検出」機能 (ベータ版) が追加。
- Adobe Illustrator: Illustrator デスクトップ版では「新しい 3D 効果とマテリアル機能」で Adobe Substance 3D マテリアルへのアクセスが可能になり、Illustrator iPad 版では Adobe Sensei を搭載した「ベクタライズ」機能 (テクノロジープレビュー) を追加。
- Adobe Character Animator: 作成者の身体全体の動作からアニメーションを作成できる、Adobe Sensei を搭載した「ボディトラッカー」機能を追加。
- Adobe Substance 3D: Adobe Illustrator、Adobe XD、Adobe Stock における 3D コンテンツやエフェクトならびに機能の統合が強化され、新しい Adobe Substance 3D Modeler (プライベートベータ版) アプリが Substance 3D Collection に加わり、未来のエクスペリエンスの創造における、3D を含む没入型テクノロジーの重要性を実感できるようになった。
- Adobe Fresco: 描画レイヤーをアニメーションレイヤーに変換してモーションを追加する「モーションとアニメーション」機能、新しい「遠近グリッドとガイド」機能、カラーを自由に試行錯誤できる非破壊的調整レイヤーの追加。

協調型クリエイティビティの実現

Adobe MAX 2021 では、クリエイティブチームがデバイスや場所を問わず、複数のデバイスやスクリーンを横断しながら関係者とリアルタイムにコラボレーションできる、Web をフル活用したクリエイティブの未来を一足先にお披露目した。

- Frame.io: Frame.io の買収により、Adobe Premiere Pro および Adobe After Effects と、Frame.io のレビュー・承認機能の組み合わせが実現しました。これにより、クリエイティブなプロセスを根本的に加速させる強力なコラボレーションプラットフォームが完成します。Frame.io のクラウドネイティブなプラットフォームは、ビデオ制作のプロセスに関わるすべての関係者から

安全かつエレガントにフィードバックを収集する方法であり、クリエイティブなプロセスに効果的に貢献できるようになる。

- Adobe Photoshop web 版（パブリックベータ版）と Adobe Illustrator web 版（プライベートベータ版）：何百万人もの個人、チーム、関係者が Web 上でクラウドドキュメントをブラウズ、共有、コメントできる、ブラウザベースのエクスペリエンスを提供します。Adobe Creative Cloud のサブスクリプションの契約者なら Adobe Photoshop web 版でプロジェクトの共同作業としてクイックな画像編集やレタッチならびに調整をおこなうことができたり、また Adobe Illustrator web 版でプロジェクトの共同作業として必要なデザインツールや編集ワークフローにアクセスすることができる（ベータ期間中は機能が限定される）。
- 「Adobe Creative Cloud スペース」（プライベートベータ版）：チーム間のコラボレーションを促進するための共有デジタルスペースで、プロジェクトに必要なあらゆるものをすべて 1 つの場所に置くことで意思決定を簡素化する。この Adobe Creative Cloud スペースには、プロジェクトファイル、ライブラリ、外部リンクが含まれており、チームの誰もが「いつでも、どこでも、誰とでも」アクセスが可能になり、クリエイティブなプロジェクトを最初から最後まで進めることができる。Adobe Creative Cloud スペースは、Adobe Creative Cloud デスクトップアプリならびに web 版を通じて、PC とモバイルデバイスからアクセスでき、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Fresco、Adobe XD のプロジェクトで利用が可能。
- 「Adobe Creative Cloud カンバス」（プライベートベータ版）：クリエイティブな作品のレイアウト、視覚化、レビューまでをすべてリアルタイムに、ブラウザだけで完結できるアプリケーションで、チームのコラボレーションを新次元へと引き上げる。

Adobe Creative Cloud カンバスには、シェイプ、テキスト、画像、ステッカーのほか、Adobe Creative Cloud アプリからリンクされたドキュメントを配置することができます。リンクされたドキュメントをクリックするだけで対応するアプリがオリジナルを開き、誰もが素早く編集を加えられる。

また、Adobe Photoshop 用の新しい Workfront のプラグインは、コンテキストに沿ったコラボレーションを可能にする。Adobe Photoshop に組み込まれた Workfront のアップデート画面で、クリエイターは作業中のプロジェクトに関連するタスクや課題を確認したり、コメントを投稿・閲覧したりすることができる。

クリエイターのキャリアの強化

アドビはクリエイターの作品の収益化をサポートします。クリエイターは、Behance プラットフォーム上で自分の作品をプレミアムコンテンツとして公開し、有料サブスクリプションとして対価を得ることができるようになった。共有するコンテンツはクリエイターが完全にコントロールでき、サブスクリプションへの入り口は Behance のプロジェクトページやライブストーリーミングページに自然な形で組み込まれる。また、Behance に掲載済みのプロジェクトはどれでも、いつでもサブスクリプション専用指定できる。

クリエイターは、アドビにプラットフォーム手数料を支払うことなく、自身のサブスクリバラーから収益を 100% を得ることができる。

フェイク情報に対抗するための「コンテンツ認証イニシアチブ (Content Authenticity Initiative)」

「コンテンツ認証イニシアチブ (CAI)」を立ち上げてから 2 年を経て、アドビはコンテンツにその帰属を含めた来歴情報を実装するテクノロジーを提供開始します。コンテンツ認証イニシアチブに基づいて開発された「コンテンツ クレデンシャル (Contents Credentials)」機能をまず Adobe Photoshop に導入し、コンテンツの帰属情報を含めた来歴を記載し、誰もが確認できるようになる。この機能は希望すれば誰でも利用でき、クリエイターの身元、編集内容、写真が撮影された時間と場所など、画像に関するコンテンツの詳細な来歴を作品に埋め込んで表明することができる。

また、作品の作者が正当に認知されることを確実なものとするために、コンテンツ クレデンシャル機能を NFT マーケットプレイスにも接続し、より明確に作品の帰属情報が表示されるようにしている。また、Adobe Stock からダウンロードする画像には自動的にコンテンツクレデンシャルが添付されるようになる。

「すべての人に『つくる力』を」を発揮できる祭典

Adobe MAX 2021 には、渡辺直美（お笑い芸人）、佐藤可士和（クリエイティブディレクター）、林 響太郎（映像監督、写真家）の各氏をはじめ、多方面で活躍するクリエイターや起業家が参加している。また、グローバルからはホセ アンドレス (Jose Andres)、リズ アーメッド (Riz Ahmed)、ザジービーツ (Zazie Beetz)、ブライアン クランストン (Bryan Cranston)、アーロン ポール (Aaron Paul)、ヘンリー ゴールディング (Henry Golding)、ケイシー ネイスタット (Casey Neistat)、ティルダ スウィントン (Tilda Swinton)、ヤング サグ (Young Thug)、クロエ ジャオ (Chloe Zhao)、イマジン・ドラゴンズ (Imagine Dragons) の各氏が参加した。さらに、エミー賞を受賞したコメディアン兼プロデューサーのキーナン トンプソン (Kenan Thompson) 氏が、Adobe Labs で開発中の最先端テクノロジーの舞台裏を紹介するセッション「MAX Sneaks」のホストを務めた。

Adobe MAX では、400 以上のセッションやラボ、29 時間のグローバルコンテンツをご用意しており、参加者にインスピレーションと学びの機会を提供した。

基調講演の視聴、グローバルセッションへの参加、志を同じくするクリエイターたちとのネットワーク構築のため、ぜひ maxjapan.adobe.com をご訪問ください。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc. の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指す。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト

<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>

